

# JEAS、「AIカメラ等のPIAの推進事例に学ぶ」

## 静岡で特別オンラインセミナーを開催

工業会日本方引防止システム協会（JEAS）のデータガバナンス\*タスクフォース及び個人情報管理室は、11月28日にレク

トール熱海小嵐（静岡県熱海市）で、工業会JEAS特別オンラインセミナーを開催した。題目は「AIカメラ等のPIA（プライバシー影響評価）の推進事例

に学ぶ」で、講師は東京海上ディーアールビジネスリスク本部上級首席研究員の青島健二氏。

国内外の情勢を鑑み、AIの構想段階からライフサイクル全体にかけて、プライバシー影響評価（PIA）を体系的に実施することでプライバシーへの影響を評価し、コンプライアンスに関連する課題に対処しておくことが必須となってきた。

開発したシステムには匿名化されたデータや個人情報ではないデータしか使用されていないと思っ



データガバナンス\*タスクフォースのメンバーら（JEAS提供）

発生する可能性がある。たとえば、訓練データセットやAIモデルから個人情報

が特定されたり、AIモデルの学習に使用された個人情報以外のデータが個人やコミュニティに影響を与えたりするケースが挙げられる。PIAには、AIのライフサイクル全体にわたるセキュリティおよびプライバシー脅威のモデル化と利害関係者との協議なども含まれる。

組織がAIを意思決定の自動化に使いたいと考えている場合は、AIがエンドユーザーにどのような影響を与えるかをわかりやすく説明できなければなら

ない。つまり、AIシステムが特定の意思決定、レコメンド、予測に至った理由を明確に示す能力（説明可能性）のことで、そのためにはAIに関するワークフローを文書化し、どのようなデータが使用されたのか、どのようにエンドユーザーに適用されたのかがわかるようにしておくことなど、定期的な監査を含めて検討が必要だ。今回

はそれらの事例について最前線・第一級の専門家より講演し

た。

◇

なお、データガバナンス\*タスクフォースは、11月28日～29日にレクトール熱海小嵐で、AIを活用していくための基本的な理念、過去の経緯から学ぶこと、ひな形となる業務フロー図、プロジェクトチャート、業務委託契約書、店頭告知、保守メンテナンス・監査サービ

ス、警備会社との覚え書等をまとめた。「AI推進のためのデータガバナンス熱海小嵐宣言」の抜粋は次の通り。

国際的な情勢として、先進国だけでなく、あらゆる国で、画像や文字のAI利用が防犯防災の中で進んでいる。同じく、少人化や効率化が小売業や介護や工事の現場などで不可欠な要素になっている。それを永続的に推進していくためには、データガバナンスを構築しなければならない。

データガバナンスの重要性については、様々な説明がなされるが、つまり、法令に適合するための体制だけでなく、国民の要求ラインやニーズに合わせて、炎上・リユビティションリスクへの体制作りが求められるところだ。このことを日々に留め今後の事業に織り込んでほしい。